

連携テーマのプロジェクトの取り組み

《目次》

- ヘルスケアイノベーションプロジェクト 1
- アニメプロジェクト 2
- グリーンLPガスプロジェクト 3
- 土佐酒輸出拡大プロジェクト 4

連携テーマのプロジェクト一覧表

連携テーマ	プロジェクト・取り組み名	目指す姿
デジタル化の促進	IoP推進プロジェクト	施設園芸農業の高収量・高品質化や省力化を実現するとともに、施設園芸関連産業群の創出・集積につなげる
	スマート林業推進プロジェクト	ICT等を活用した森林施業の効率化・省力化に資する「スマート林業」への転換により、生産性の向上、経営の安定化等につなげる
	高知マリンイノベーションプロジェクト	水産業の生産、流通、販売の各段階においてデジタル化に取り組む高知マリンイノベーションを推進し、効率的な漁業生産体制への転換を図る
	ヘルスケアイノベーションプロジェクト	デジタル技術を活用したヘルスケアビジネスを展開する企業を呼び込むことで、ヘルスケアイノベーションを創出する
	アニメ産業集積プロジェクト	アニメクリエイターやアニメーション関連企業の誘致、集積を図ることで、アニメ産業を創出する
グリーン化の促進	プラスチック代替素材活用プロジェクト	工業分野や一次産業分野におけるプラスチック代替素材の活用を促進し、グリーン化関連産業の育成につなげる
	グリーンLPガスプロジェクト	高知県の木質バイオマスやマリンバイオマス（海藻等）資源を活用した、グリーンLPガスの地産地消を目指す
グローバル化の促進	土佐酒輸出拡大プロジェクト	国内での日本酒需要が低下し、生産量が減少する中において、ニーズが高まっている海外市場への輸出拡大を図ることで、土佐酒や県産酒米の生産量を維持・拡大し、県内酒造メーカーの経営安定化と中山間地域の振興につなげる
	農水産物・食品輸出拡大プロジェクト	生産現場と流通現場が連携し、輸出先国のニーズを捉えたマーケットイン型の地産の強化、国内外の商社とのネットワークの構築、海外でのプロモーションの展開等を促し、農水産物・食品の輸出拡大につなげる
	土佐材輸出拡大プロジェクト	将来の国内需要の減少も見据え、新たな販路の開拓として輸出拡大への取組を推進し、林業・木材産業の振興につなげる
	外国人材確保・活躍プロジェクト	生涯賃金アップに向けたスキルアップの支援や、住みやすく働きやすい環境の整備など、外国人材の満足度を高める取り組みを推進していくことで、「選ばれる高知県」を目指す
	インバウンド推進プロジェクト	課題（認知度向上・受入環境整備など）解決を図ることで、来高するインバウンドの増加につなげる

目指す姿

産学官民連携による（デジタル技術を活用した）ヘルスケア産業の創出

現在

- 共同研究パートナー（大学・企業等）の紹介
- 臨床研究のコーディネート
- 研究資金獲得サポート等の伴走支援

- ヘルスケア産業を担う次世代人材の育成・供給
- 実証フィールドの整備
- 国・金融機関・ベンチャーキャピタル等とのネットワークづくり

3年後

成功事例の創出

- XR技術を活用した治療（デジタル治療薬等）
- 遠隔診断・治療システム 等

民間が主体となったビジネス化に向けた伴走支援体制の構築

5年後

県内での起業・新規事業参入

- 大学発ベンチャーの創業や学生による起業
- 県内企業の新事業参入
- 県外企業の立地・定着 等

企業の成長

- 企業間連携等による県内企業への技術移転
- 企画提案力・技術力・研究開発力・生産力等の向上
- 県内企業による製品化 等

イノベーションの創出

県内波及効果

- 雇用の創出 ～優秀な人材の定着・県外からの転入～
- 地域産業の活性化 等

取組概要

【KPI】 相談件数、事業化件数



相談

① 伴走支援

- 相談・共同研究・臨床実証・事業化・成長フェーズまでの伴走支援



協議会



② 交流・マッチングの場づくり

- 県内企業・県外企業・県内高等教育機関のマッチング会の開催
- 交流会の開催

③ 人材育成・供給

- 県内高等教育機関による産業人材及び高度な研究人材の育成

④ 財政支援

- 県による研究開発支援
- 外商支援
- 県内への定着支援

- ヘルスケアイノベーション推進協議会の設置
- 産業創出に向けた ① 伴走支援、② 交流・マッチングの場づくり、③ 人材育成・供給、④ 財政支援 を実施

令和4年度の取組

- 推進体制の構築（8月～）
 - 協議会の設置・開催（年2回程度）
 - ワーキンググループ（WG）の開催（定例会月1回＋随時オンライン等で開催）
 - エグゼクティブコーディネータ（仮称）・コーディネータの設置
- プロジェクト支援メニューの検討（7月～）
 - 実証フィールドの確保に向けた市町村等との協議 等
- プロジェクト支援案件の選定（1月）

<支援候補>

 - XR技術を活用した治療（デジタル治療薬等）
 - 遠隔診断・治療システム 等

→ 協議会で選定
- 交流会・マッチング会の開催（2月）
 - 企業、大学、有識者等による交流会・マッチング会の開催（年1回）
- 人材育成（通年）
 - 高知大学のヘルスケアイノベーションコースや「医療×VR」学等を通じた人材育成
 - 「高知デジタルカレッジ」におけるVR人材育成に向けた検討 等

高知県アニメプロジェクト

目指す姿

官民連携によるアニメ産業の集積・成長

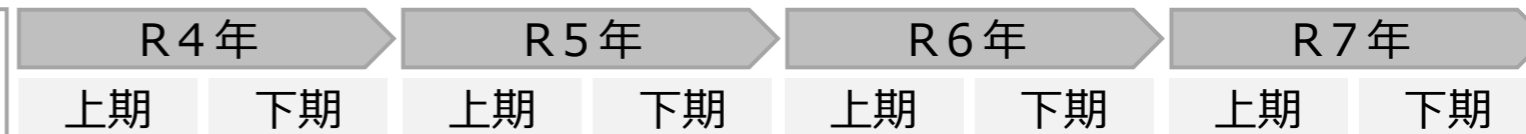


県内波及効果

・雇用の創出 ～人材の定着、県外からの転入～ ・地域産業の活性化 ・観光客の増加 等

取組概要

【KPI】 県内アニメーション関連企業の従事者数
R3 : 3人 → R4 : 30人 → R5 : 50人



高知県アニメプロジェクト	アニメクリエイター 聖地プロジェクト	アニメ会議	アニメクリエイター同士の交流や、アニメーション関連企業とのマッチング機会を創出するためのバーチャルコミュニティの開設	● R4下 アニメ会議所WEB開設 ● R4下 アニメ会議所リアル会議開催	交流、マッチングの拠点として活用	
		アニメクリエイターアワード	アニメクリエイターを志す高校生、大学生、専門学校生や未発掘の若手クリエイターから作品を公募し、表彰	● R4下～アニメクリエイターアワード作品募集・優秀作品表彰		
		アニメクリエイターフェスティバル	アニメーション関連企業やクリエイターを高知に招き、アニメクリエイターを志す若者たちに、アニメ関連の仕事を紹介するカンファレンスを実施し、マッチング	● 11/9,12-13 プレイベント	● R5下 第1回「アニクリ祭り」 ● R6 第2回「アニクリ祭り」	
		アニメ仲間プレミアムプラン	アニメーション関連企業やアニメクリエイターのワーケーションおよびロケーション等を多数誘致するため、「アニメクリエイターを優遇する高知」をアニメ業界で話題化			
		アニメクリエイターデジタルラボ	高知市内に、サテライトオフィススペースを設置し、アニメ関連企業などの拠点化、二拠点化をサポート	● R5下 デジタルラボ開設	アニメ関連企業の拠点として活用	
		アニメ仲間デジタルベース	ワーケーションができるオフィス、宿泊機能、最新技術が体験できるラボ機能等を揃えたアニメクリエイター用施設の設置	● R5～R6 デジタルベース開設		
	アニメ産業集積 プロジェクト	推進体制の構築	「高知県アニメプロジェクト推進会議（仮称）」、「高知県アニメプロジェクト運営委員会（仮称）」の設置（県、市町村、関連企業、有識者等で構成）	● R4上 推進会議、運営委員会設置	全体方針策定、進捗管理等	
		人材育成	アニメクリエイターを志す若者等の発掘・人材育成（デジタルクリエイター育成講座、社会人等向け専門講座、中高生等向け体験講座 等）	● R4夏 デジタルクリエイター育成講座（高知デジタルカレッジ） ● R4 中高生等ニーズ調査	● R5 社会人等向け専門講座 ● R5上 中高生等向け体験講座	各講座で連携を図り継続実施
		誘致の促進	各種支援メニューによるアニメーション関連企業の誘致（企業立地促進事業費補助金、シェアオフィス利用推進事業費補助金 等）		各種支援メニューによるアニメーション関連企業の誘致	
		アニメツーリズムの促進	フィルムコミッションによるロケ支援、高知県産アニメによるツーリズムの構築		フィルムコミッションによるロケ支援 高知県産アニメによるツーリズムの構築	



大阪万博開催
アニメのパワーで
国内外の人々
を高知につなぐ

グリーンLPガスプロジェクト

【背景】

○令和3年6月27日、早稲田大学の関根教授と濱田知事が面談。関根教授から、LPガスをグリーン化するための取組について紹介あり。
⇒高知県の家庭の8割程度がLPガスを利用しており、本県の脱炭素化に資するものであることから、検討を開始。

【グリーンLPガス】

森林資源や海藻などのバイオマスから生産するグリーンなLPガス。現在、関根教授を中心として、国、LPガス元売事業者等による産学官連携により、生産技術開発と活用に向けた取り組み等が進められている。基礎研究には高知大学も参画。

○関根教授からは、グリーンLPガスの原料となる**木質バイオマス資源等を供給するシステム作りへの協力**依頼とともに、資源供給システムを活用した**グリーンLPガスの地産地消モデル(高知モデル)の確立**を提案された。

○豊富なバイオマス資源を持つ、本県の特性を生かしたカーボンニュートラルの実現に向けた貢献が可能な取組であることから、本県としても、グリーンLPガスの地産地消モデル(高知モデル)の実現に取り組んでいくメリットがあると考えられる。

グリーンLPガス生産技術の開発

【グリーンLPガス生産技術開発の意義】
日本全体で4割強の(5,000万人)家庭がLPガスを利用。カーボンニュートラルに向けては、現在100%化石燃料から生産されているLPガスをグリーン化することが期待されている。

生産技術開発スケジュール

環境省R4年度新規事業「地域資源循環を通じた脱炭素化に向けた革新的触媒技術の開発・実証事業」に採択
〈予算額〉19億円
〈実施期間〉2022年~2028年

2022年 **ラボレベルでの研究**

2028年 **実証実験段階** ★
木質バイオマス1日5t程度

実用段階
木質バイオマス1日10t程度

グリーンLPガス活用に向けた役割分担

生産技術
(**新たな触媒の研究**) 早稲田大学 高知大学

原料供給体制の構築 ★
行政 民間事業者

グリーンLPガス生産 未定 ★

グリーンLPガス販売
LPガス元売事業者 等

【参考】グリーンLPガスの製造イメージ



高知県の参画イメージ

(★印が参画するパート)

実証実験
フィールドの提供

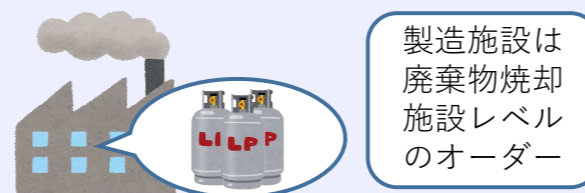
資源供給システムの構築

林地残材等の木質バイオマス資源 海藻等のマリンバイオマス資源



高知県内でのグリーンLPガスの製造

グリーンLPガスを製造する県内事業者の育成又は事業者を誘致



グリーンLPガスの地産地消モデル(高知モデル)の構築

高知県グリーンLPガスプロジェクト推進会議の設立

※グリーン化関連産業育成プロジェクトとして設立
令和5年度には、グリーンLPガスの地産地消モデルに関する基本構想を策定予定

■推進会議の体制

○幹事会

会長	早稲田大学	関根教授
副会長	高知県林業振興・環境部	武藤副部長
副会長	高知大学次世代地域創造センター	吉用副センター長
幹事	高知県森林組合連合会	戸田会長
幹事	高知県LPガス協会	公文会長
幹事	高知県水産振興部	濱田副部長

○会員

(R4.6.22時点) 10団体
※今後、林業関係事業者、エネルギー関係者、LPガス事業者、市町村等に声かけを行い参画を促す。

■令和4年度の活動内容

○プロジェクト設立・講演会の実施 (R4.5.27)

- ・設立趣旨説明
- ・活動計画
- ・グリーンLPガスの生産技術確立に向けた動き等の講演

○意見交換会の開催

- ・グリーンLPガスの本県での地産地消の実現に向け、テーマを設定し、関係者間で意見交換会を実施
- ・今後の進め方、スケジュール、推進体制等について協議
- ・テーマは、今後プロジェクトの進行状況により随時追加していく

〈テーマ〉

- ①木質バイオマス系
- ②マリンバイオマス系
- ③グリーンLPガス製造・販売系

土佐酒輸出拡大プロジェクト

「土佐酒輸出拡大プロジェクト」による土佐酒の生産、開発、流通・販売における課題の抽出と共有

1. 県産酒米の利用拡大

- ① 県産酒造好適米の高品質化と安定生産技術の普及が必要
- ② 計画生産には酒米産地会議における要望数量の精度向上が必要
- ③ 県産酒米の特性を生かせる精米体制の検討が必要

2. 売れる商品づくり

- ④ 海外市場で求められる商品開発に向けて、売れ筋銘柄の酒質、ラベル情報、流通条件等の分析、他県産との差別化が必要
- ⑤ 海外展開における県産酵母の知財保護が必要
- ⑥ 県内酒造メーカーのさらなる醸造技術の向上が必要

3. 生産体制の強化

- ⑦ 海外市場で求められる品質及び衛生管理レベルへの対応が必要
- ⑧ 輸出先から求められるロットに対応できる生産体制の拡大が必要

4. 外商の支援

- ⑨ 海外で求められる清酒等の嗜好や流通形態を把握することが必要
▶国や地域によって清酒等の嗜好や流通形態が異なる
- ▶EC市場の拡大など市場環境が変化している
- ⑩ 海外との取引の商流を担う国内外の商社とのネットワークの構築が必要
- ⑪ 現地商社が行う販路開拓・拡大への後押しが必要
- ⑫ 土佐酒の認知度向上に向けたプロモーションが必要
▶大手酒造メーカーに比べて、土佐酒の認知度が低い

「土佐酒輸出拡大プロジェクト」における関係者の連携によるプロジェクト推進

現状・課題

体制

取り組み内容

県	環境農業推進課 / 農業技術センター / 農業振興センター / 工業技術センター
主体	JA高知県・生産者・酒造組合・酒造メーカー

県産酒米の生産拡大

◎酒造好適米（「吟の夢」、「土佐麗」）の高品質、安定生産技術の向上

- 酒造適性、栽培適性に優れた酒米品種の育成・改良
- 酒米の品質分析による酒造適性の検証
- 生産地毎の栽培試験や分析結果に基づく栽培指導、現地検討会
- 品評会等を通じた酒造好適米の高品質・安定生産技術の普及

▶吟の夢の1～2等米比率80%以上

◎計画生産の推進

- 要望数量の精度向上（11月・酒米産地会議）
- 生産者と酒造メーカーとのマッチング等による酒米の産地づくり支援
- 貯蔵管理等による安定供給体制の検討

▶要望数量と生産量のミスマッチを解消

◎精米体制の検討

- 酒造メーカーのニーズに「応じた精米方法の検討
- 実需の把握（量・形状等）

▶今後の精米体制について方向性を協議

課題①②③

県	工業技術センター / 工業振興課
主体	酒造メーカー

商品開発

◎海外市場での売れ筋商品の分析・試験

- 海外市場における売れ筋銘柄の味や香り等の成分分析
- 輸送時の条件が商品に与える影響調査を実施

▶データ解析・分析による、輸出関連情報の蓄積

◎現地ニーズに応じた商品開発

- 有望酵母を活用した新商品の開発支援
- 有望酵母の知名度を活用できる仕組みの構築（商標登録等）
- 新たな酵母の開発を検討

▶酒造メーカーが、新酵母を使用した新商品を開発

▶県有財産、知的財産の保護

◎品質向上に向けた技術支援

- 有望酵母の活用マニュアルを作成し、製造をバックアップ
- 醸造技術の向上に向けた技術指導

▶酒造メーカーの醸造技術が向上

課題④⑤⑥

県	地産地消・外商課
主体	酒造メーカー
関係機関	国 / 中小企業団体中央会 / 食品衛生協会

生産体制の強化

◎県内酒造メーカーの品質及び衛生管理レベル向上

- 県版HACCP第2ステージ以上取得への支援
- 品質及び衛生管理の向上に向けた施設整備への支援

▶酒造メーカーが、品質及び衛生管理レベルを向上

◎県内酒造メーカーの生産体制を強化

- 食品加工高度化支援事業費補助金（上限：300万円、下限：30万円、補助率：1/2以内）
- 食品加工施設等整備促進事業費補助金（上限：5,000万円、下限：500万円、補助率：1/2以内）

▶酒造メーカーが、生産体制を強化

▶酒造メーカーが、県産酒米を使用した商品の生産を拡大

課題⑦⑧

県	地産地消・外商課 PT事務局 / 海外支援拠点 / 貿易促進コーディネーター / 外商公社
主体	酒造メーカー・酒造組合・商社
関係機関	JETRO

市場調査

◎海外市場調査

- JETROのネットワークを活用した現地ニーズ・規制を調査
- 海外支援拠点（食品海外ビジネスサポーター（欧州・米国・中国）・シンガポール事務所・台湾オフィス）を通じた現地ニーズの収集

▶調査結果を受け、酒造メーカーが、マーケットイン型の地産を強化

◎マッチング商談会の開催及び国内外の展示会への出展

◎貿易促進コーディネーター及びJETROによるマッチング支援

▶商談会等により、酒造メーカーが、国内外の新規商社との商流を開拓

◎海外支援拠点を通じた現地商社の営業活動の支援

- 現地キーパーソン（影響力のあるシェフ、メディア等）との関係構築とキーパーソンを通じた情報発信
- 飲食店や小売店への訪問等によるPR活動

▶現地商社が、営業活動を展開

◎重点市場（中国、米国、欧州等）での海外プロモーションの展開

- 飲食店での賞味会の開催
- インフルエンサーを活用した情報発信（動画配信、ライブコマースの開催）

▶県産品の認知度向上により、酒造メーカーが、飲食店等への販売やECによるBtoCの販売を拡大

課題⑨⑩⑪⑫

▶ 目指す姿 : 伝統と技術革新に支えられた美味しくて新しい『TOSA SAKE』を、官民一体で世界へ発信し、拡大再生産の好循環につなげる！